広告

トップに訊く INTERVIEW

カンケンテクノ株式会社

代表取締役社長
今村 啓志 氏

PROFILE
1960年、大阪府立大学工学部を卒業後、工業炉メーカーに入社し、環境設備の設計に従事。1978年に関西研熱工業(現・カンケンテクノ)を起業、社業発展に尽力。国内の他に海外では7拠点を展開。

カーボンニュートラルの達成と環境問題の解決の両面でグローバルトップを目指します

大気処理の経験を生かし排ガス浄化会社を起業

カンケンテクノは1978年の創業以来、産業界で排出される有害ガスや地球温暖化ガスなどの人体や地球環境に影響を与えるガスを浄化し、無害化してきた企業です。

私が社会人になって初めて就いた仕事も、温度や湿度を調整し、滅菌もできる装置の設計や製造という大気処理に関係するものでした。この装置はアメリカから技術導入した当時としては最新のもので、電気機器産業や鉄鋼業、製薬、病院など幅広く採用されました。滅菌効果によって日本酒を四季醸造に変えた画期的な装置でもあります。

1970年、大阪万博を終えた大阪府は公害対策や福祉を重要視する世論を受け、日本で一番厳しい大気環境基準を制定しましたが、対応できる設備は少ないものでした。そこで大気処理の経験を生かして新たな装置を開発したいと考えたのが、創業のきっかけです。

当時は日本の高度経済成長期で電気機器産業が元気な時代にあったため、工場が瞬く間に増えていくとともに、環境汚染は社会問題になりました。それらの解消を課題とする企業からたくさんの依頼がありました。

脱炭素化に貢献するモノづくり

排出されるガスには、水溶性ガス、酸化で無害化するガス、還元すると無害化するガス、微量でも有害なガスなど、様々な種類があり、そのガスに合わせた処理が必要となります。それらの技術の組み合わせの中には、当社の特許技術が四十数件ほどあります。

経済産業省の「2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」」の他にも、2020年10月には、地域経済への影響が大きく、成長性が見込まれる企業として地域未来牽引企業に選定されるなど、その技術力は各方面で高い評価を得ている

また装置は、当初より電気式を採用。ガス燃焼式では、燃やすことで新たな排ガスが生じてしまうなどのリスクを考慮し、電気式にこだわりました。安全性も高く、省エネにもなりますが、多少コストがかかってしまう部分は当社の技術でカバーしています。

そのような環境に配慮した企業としての取り組みが評価され、2015年には地球温暖化防止活動により環境省から「環境大臣賞」を受賞しました。また、2020年には経済産業省から世界市場のニッチ分野で勝ち抜いている企業として「グローバルニッチトップ企業100選」に選出されています。

1997年、本社のある京都で気候変動枠組条約締約国会議(COP3)「京都議定書」が採択され、国内の電子デバイス企業と連携して削減に取り組み、2005年に、京都議定書が発効されると、当社の事業活動の国際的認知度も高まりました。今後もこれまで以上に顧客の安定操業に貢献できる技術開発とモノづくりで信頼関係を強化し、社業発展につなげていきたいと考えています。

環境の課題に向き合い事業を進めていく

後任にも恵まれている私は、第一線で研究を続けているわけではありませんが、興味のある「環境」に関することにはずっと取り組んでいきたいと考えています。

国際社会は、脱炭素社会に向かって産業革命に匹敵する大きな変革を迎えるのではと考えています。「2050年までの『脱炭素社会』の実現」を基本理念とする改正地球温暖化対策推進法が成立し、SDGsでは2030年の目標達成を目指しています。当社の活動は、こうした環境保全活動の社会基盤となるものと確信しています。

化石燃料は燃焼するとエネルギーを発生すると同時に、CO_2と水蒸気を大気に排出します。水蒸気は雲になり雨として地上に落下します。大気の気温上昇による水分保有量の増加と併せて、近年の土砂災害の引き金となり、これも産業社会がもたらした公害といえます。今後は水にも着目し、活動領域を拡げ、環境に関わるすべてに向き合っていきたいと考えています。

KANKEN
カンケンテクノ株式会社
〒617-0833 京都府長岡京市神足太田30-2
TEL.075-955-8823
https://www.kanken-techno.co.jp/

日経BP社の許可により「日経ビジネス」2021年8月30日号から抜粋したものです。禁無断転載 ©日経BP